

編集 後記

本号は装い新たになった本誌初めてのニュース版ですが、私たち会員にとって大きなニュース『日本生理学会が2009年IUPS国際大会の招致に立候補へ』をお伝えすることになりました。いま世紀を越えて、科学史の流れのなかで生理学という学問領域が、また世界の広がりの中で日本という国が、それぞれ存立基盤の見直しを迫られていることは、我々皆の認識するところであり、この様な状況の中で、IUPS-2009の日本開催を成功させることにはられるであろう我々の努力は、大きな歴史的意義を担うべきものと期待されます。日本が様々な分野で世界のフロントランナーとなり、生理学が生命科学諸分野を統合するコーディネーターとなって、国際社会の枠組みの中で我等学会が世界人類の幸福に貢献する橋頭堡を築くことができることを願います。

一方で、「生理学会が環境庁自然保護局に捕獲サルなどの動物実験使用に関する意見書を提出する」という動きがありました（NEWS欄、常任幹事会速報をご参照下さい）。これは、数年前の

イヌ・ネコに続いて今後サルなどの中動物の実験が困難になるかもしれないことに対する学会の意志表示です。欧米からは、ネズミの実験施設が襲撃されたり、遺伝子組み替え実験全面禁止などという様に、総ての動物実験全面禁止に至らしめる運動が広がりつつあるというニュースも伝わってきます。現代社会では、動物実験なしには我々の生命を維持することすらむずかしい状況は研究者なら誰でも知っています。これらの状況を、単に研究者が実験手段を奪われることに対する危機感としてではなく、生命倫理・創薬医療・生存環境などといった広い視野に立った国の科学技術基本政策の中に位置づけ組み込んで、社会に訴えて行く必要性を感じます。

これからの時代、生理学者は国際社会の中でどのような役割を担ってゆくべきかのグランド・デザインを常に頭に描きながら、人間の社会活動の一部として自らの研究活動を営んで行かなければならない時代になってきたのだと思います。

(入来篤史)

*編集執行委員

編集委員

*金子 章道 (編集幹事) (感覚)	青木 藩 (呼吸)
小野田法彦 (感覚)	河南 洋 (自律神経, 内分泌)
*工藤 典雄 (運動, 発生・成長・老化)	窪田 隆裕 (腎・体液)
黒島 晟汎 (環境)	小西 真人 (筋)
佐久間康夫 (生殖)	*佐々木成人 (運動)
高田 明和 (血液)	菅屋 潤壹 (栄養・代謝・体温)
*高松 研 (神経化学)	土居 勝彦 (心臓・循環)
*中島 祥夫 (運動)	成瀬 達 (消化・吸収)
*入来 篤史 (感覚, 運動, 高次中枢)	*川上 順子 (感覚)
辻岡 克彦 (循環)	福田 淳 (感覚, 高次中枢)
村上 政隆 (膜輸送)	吉岡 利忠 (体力)
小山 なつ (HP担当)	

日本生理学会事務局：〒113-0033 東京都文京区本郷3-30-10 布施ビル
TEL：03-3815-1624 FAX：03-3815-1603 (勤務時間10：30～18：30)
E-mail：psj@qa2.so-net.ne.jp
URL：http://wwwsoc.naccis.ac.jp/psj/